

厚生労働科学研究費補助金（子ども家庭総合研究事業）
分担研究報告書

分担課題：未婚女性の妊娠に関する意識調査

研究分担者 杉浦真弓 名古屋市立大学大学院医学研究科教授
研究協力者 尾崎康彦 名古屋市立大学大学院医学研究科講師
研究協力者 北折珠央 名古屋市立大学大学院医学研究科助教

研究要旨

未婚女性の 93.4%が子供を持ちたいと考えていたが、不妊症、流産の頻度を正確に把握していたのはたったの 10.5%であった。さらに自分が妊娠できる年齢について 32.6%が 45 歳までと答え、29.0%が 40 歳までと答えた。不妊症、流産は加齢とともに増加するが女性たちが自身の妊娠能力を過信することで起こっていることも考えられる。正しい知識の啓発によって女性の加齢による不妊症、流産を予防することは急務である。

A. 研究目的

不妊症は約 15%、流産は約 15%の頻度で起こるが、女性たちはそのことを知らずに直面して初めて「まさか自分に子どもができないなんて」とショックを受けている。女性の社会進出に伴い、妊娠高齢化、少子化が進んでいるが、女性の加齢と共に不妊、流産が増加するという知識がないため、仕事を中心とした人生設計を立て、避妊した時間のために結果的に子どもを持つことができなくなっている女性も少なくないと言日常診療の中で感じる。未婚女性たちの妊娠に関する知識不足を明らかにし、啓発によって不妊症、流産を予防することを目的とした。

B. 研究方法

名古屋市立大学学生（臨床講義前）、名古屋女子大学学生、日本産科婦人科学会女性の健康週間参加者 198 人の独身女性を対象とした。平均年齢は 23.1(4.8)歳。後述の自記式質問表に解答してもらった。

（倫理面への配慮）

本研究は名古屋市立大学倫理委員会の承認を得ている。

C. 研究結果

未婚女性の 97%が結婚を希望しており（図 1）、98.5%が仕事をしたいと考え、70.7%が生涯仕事を継続したいと考えていた（図 2）。93.4%が子供を持ちたいと考えていた（図 3）。不妊症については 99.5%が知っていると思えたが、不妊頻度を正確に解答できたのは 43.5%のみであった（図 5）。流産頻度について正しく解答できたのは 18.3%のみであった（図 7）。さらに不妊症、流産ともに正解できたのは 10.5%のみであった。これらの知識について学校（22.2%）や親（5.1%）よりメディア（82.8%）から知識を得るものが多かった（図 8）。さらに自分が妊娠できる年齢について 32.6%が 45 歳までと答え、29.0%が 40 歳までと答えた（図 9）。

D. 考察

不妊症や流産はそれぞれ約 15%の頻度であり、女性の加齢と共に明らか増加するにもかかわらず、近い将来子供を持ちたいと考える女性たちがその知識に乏しく、いくつになっても出産できると誤解している現状が明らかになった。

平均年齢 23 歳の未婚女性は仕事を持ち、子供を持つことが標準的未来像と考えていた。未婚女性は主にメディアから生殖の知識を学んでいたが、不妊症、流産の頻度について選択問題にもかかわらず正解できたのはたったの 10.5%であった。

不育症患者が流産のショックのために避妊し、あるいは不妊症患者が不妊に気がつく前に仕事などの理由によって避妊していることは日常診療の中で多くの産婦人科医師が経験している。

日本人女性は月経のメカニズム、避妊について月経発来前の小学5年生頃、中学・高校家庭科、保健体育、生物で学習する。しかし、それらの教科書を見ても「バースコントロール」「女性の生む権利」に触れている教科書は存在しているが、「子供ができない人がいる」ことに触れている教科書はめったに存在しない。

ある高校家庭科の授業では「豆腐をうすく切って油で揚げると油揚げができる」と教えているが、おあげの作り方を知ることと不妊・不育を知ることと人間が生きていくうえでどちらが重要な知識であろうか。

年間 110 万人の子どもが生まれる一方、20 万人の子どもが流産し、7 万人の不妊症患者が発生している現状がある。不妊症も含めれば膨大な「子どもに恵まれないカップル」が存在するのである。

流産、不妊症の知識を正しく教科書に書くことが、誤った知識によって生殖適齢期を失う患者を救うことに直結する。

F. 健康危険情報
特になし

G. 研究発表

1. 論文発表
なし
2. 学会発表
なし

H. 知的財産権の出願・登録状況
(予定を含む。)

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし

妊娠に関する意識調査

名古屋市立大学では未婚者たちの結婚・妊娠に対する意識調査を行っています。知識を問うテストではありませんので思ったままお答えください。また、なるべく順番に答えていただいて、前の質問に戻らないようにしてください。

ご協力をお願い申し上げます。

名古屋市立大学医学部教授 杉浦真弓

- あなたの年齢・性別・学部をお答えください。 () 才・性別 ()・学部 ()
- あなたは結婚したいと思いますか。
a 結婚したいと思わない。 b 結婚するかもしれない。 c いつか必ず結婚する。
- あなたは自分自身の結婚観について考えたり悩んだりしたことがありますか。
a 考えたことがなかった。 b 親や世間一般の考えを受け入れていた。 c 自分で考え悩んだ。
d 不明
- あなたは自分自身のお仕事についてどのように考えていますか。
a 重要だとは思わない。 b 自分の人生に重要だと思う。 c 不明
- あなたは自分自身の職業観について悩んだり考えたことがありますか。
a 考えたことがなかった。 b 親や世間一般の考えを受け入れている。 c 自分で考え悩んだ。
d 不明
- あなたは仕事をいつまで続けたいと思いますか。
a 結婚するまで。 b 出産するまで。
c 出産・育児の間休業して、その後も仕事をしたい。
d 生涯、仕事を続けたい。 e 仕事はしたくない。
- あなたは将来子供を持ちたいと思いますか。
a まったく持ちたいと思わない。 b どちらかというを持ちたいと思わない。
c どちらかというを持ちたいと思う。 c 必ず持ちたいと思う。
- あなたは出産・育児についてどのように考えておられますか。
a 重要だと思わない（関心を持っていない）。 b 自分の人生に重要だと思う。 c 不明

9. あなたは自分自身の出産・育児について悩んだり考えたことがありますか。
- a 考えたことがない。 b 親や世間一般の考えを受け入れていた。 c 自分で考え、悩んだ。 d 不明
10. 将来子供を持ちたいという人はお答えください。あなたはいくつまでに出産したいと思いますか。
- a 25歳 b 30歳 c 35歳 d 40歳 e 50歳
11. 将来子供を持ちたい人はお答えください。あなたが子供を持ちたい理由はなんですか（複数可）。
- a 女性として生まれたからには出産したい。 b 自分の分身がほしい。
c 将来の夫（妻）の分身がほしい。 d 夫婦結合の証がほしい。
e 家名を継ぐため。 f 他人から女性（男性）として一人前と認められたい。
g 自分自身成人の女性（男性）と感じたいから。 h 年老いてさびしいから。
i 子供が好きだから。 j 子供を育てる喜びを感じたいから。
k その他（ ）
12. あなたは“不妊症”を知っていますか。
- a まったく知らない。 b 少し知っている。 c 知っている。
13. 不妊症について（少しでも）知っているとした人は、どこで知りましたか（複数可）。
- a テレビ、雑誌、新聞、ホームページなどのメディア。
b 友達から聞いた。
c 学校で習った。教員から聞いた。
d 親から教えられた。
e まわりに悩んでいる人がいるから。
f その他（ ）
14. 不妊症について（少しでも）知っているとした人はお答えください。不妊症は子供を望む夫婦の何パーセント存在すると思いますか。
- a 0.1% b 1% c 3% d 5% e 10%
15. 不妊症について（少しでも）知っているとした人はお答えください。不妊症の原因はどちらにあると思いますか。
- a 女性がほとんど b 男性がほとんど c 男性：女性がほぼ1：1の割合
16. あなた自身はいくつまで自然に妊娠できると思いますか。
- a 30歳 b 35歳 c 40歳 d 45歳 e 50歳 f 60歳

17. 妊娠した女性の何パーセントが自然流産すると思いますか。
a 0.1% b 1% c 3% d 5% e 15%
18. あなたは体外受精についてどう思いますか。
a 賛成である b 必要であればやむをえない c 反対である d よくわからない（不明）
19. あなた自身が体外受精が必要といわれたらどう考えますか。
a 抵抗はない b 必要があればやむをえない c 抵抗がある d そこまでして子供を持ちたくない
e 不明
20. あなたは着床前診断（受精卵診断）についてどう思いますか。
a 賛成である b 必要であればやむをえない c 反対である d よくわからない（不明）
21. あなた自身が着床前診断が必要といわれたらどう考えますか。
a 抵抗はない b 必要があればやむをえない c 抵抗がある d そこまでして子供を持ちたくない
e 不明
22. あなたは代理出産についてどう思いますか。
a 賛成である b 必要があればやむをえない c 反対である d 不明
23. あなた自身が代理出産が必要といわれたらどう考えますか。
a 抵抗はない b 必要があればやむをえない c 抵抗がある d そこまでして子供を持ちたくない
e 不明
24. あなた自身（あなたの妻）の子宮を貸すことができますか。
a 抵抗はない b 必要があればやむをえない c 抵抗がある d 貸すことはできない

お疲れ様でした。御協力ありがとうございます

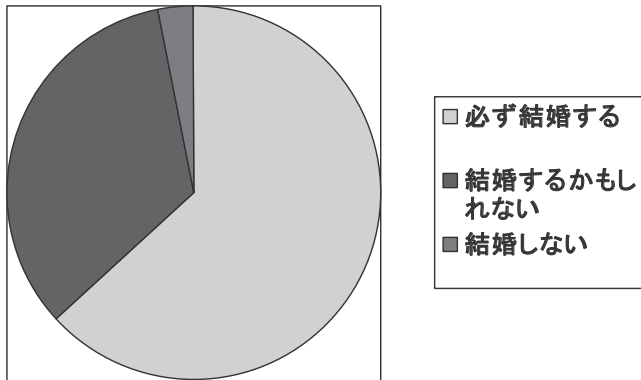


図1 結婚

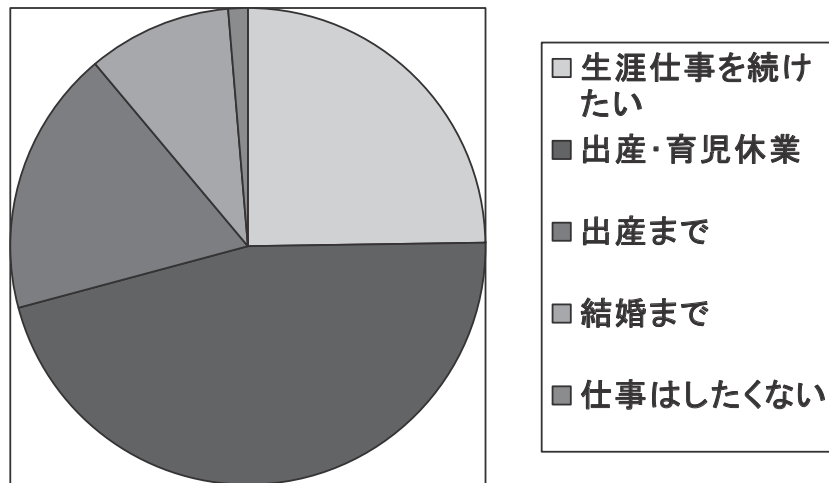


図2 仕事継続

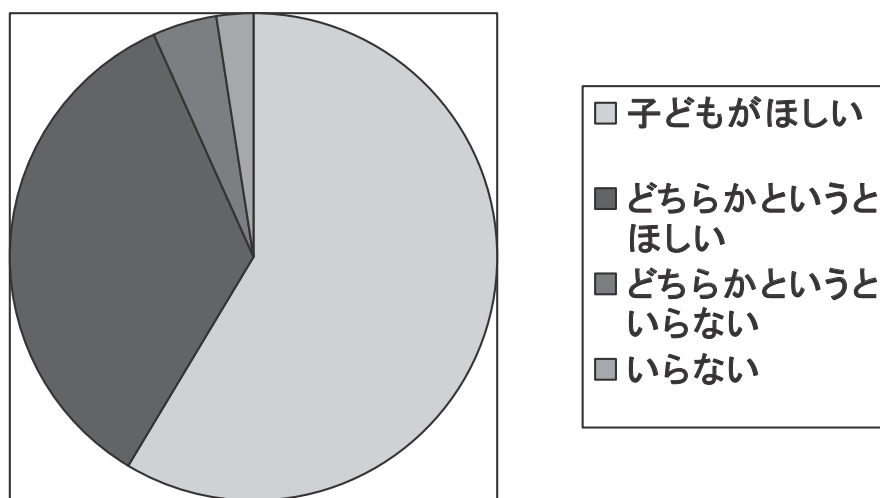
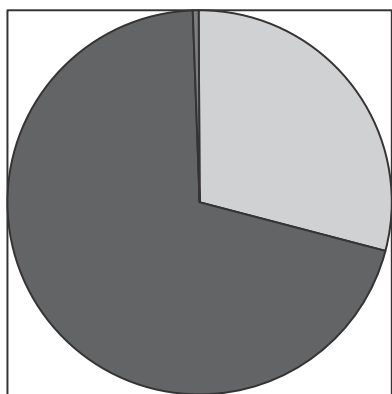
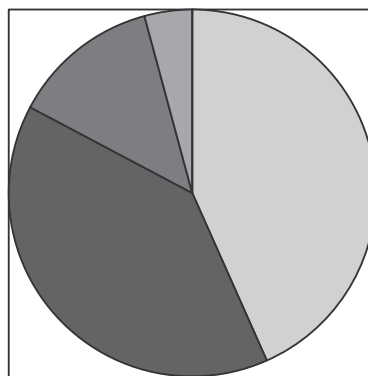


図3 育児希望



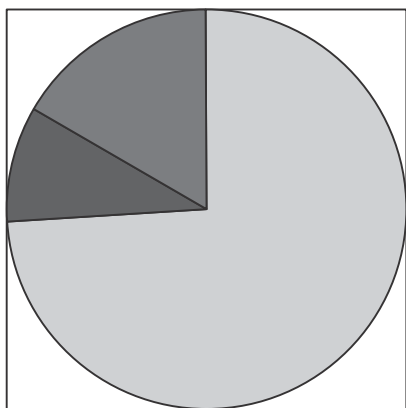
□ 知っている
 ■ 少し知っている
 ■ まったく知らない

図4 不妊の知識



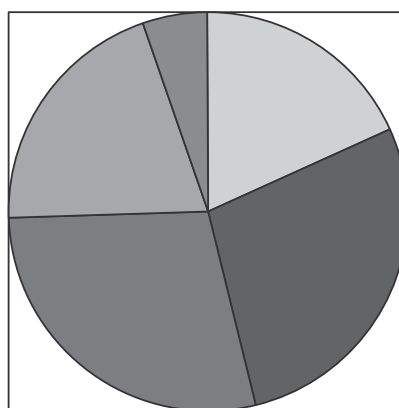
□ 10%
 ■ 5%
 ■ 3%
 ■ 1%
 ■ 0.10%

図5 不妊頻度



□ 男女1:1
 ■ 主に男性
 ■ 主に女性

図6 不妊原因



□ 15%
 ■ 5%
 ■ 3%
 ■ 1%
 ■ 0.10%

図7 流産頻度

10.5%が正解

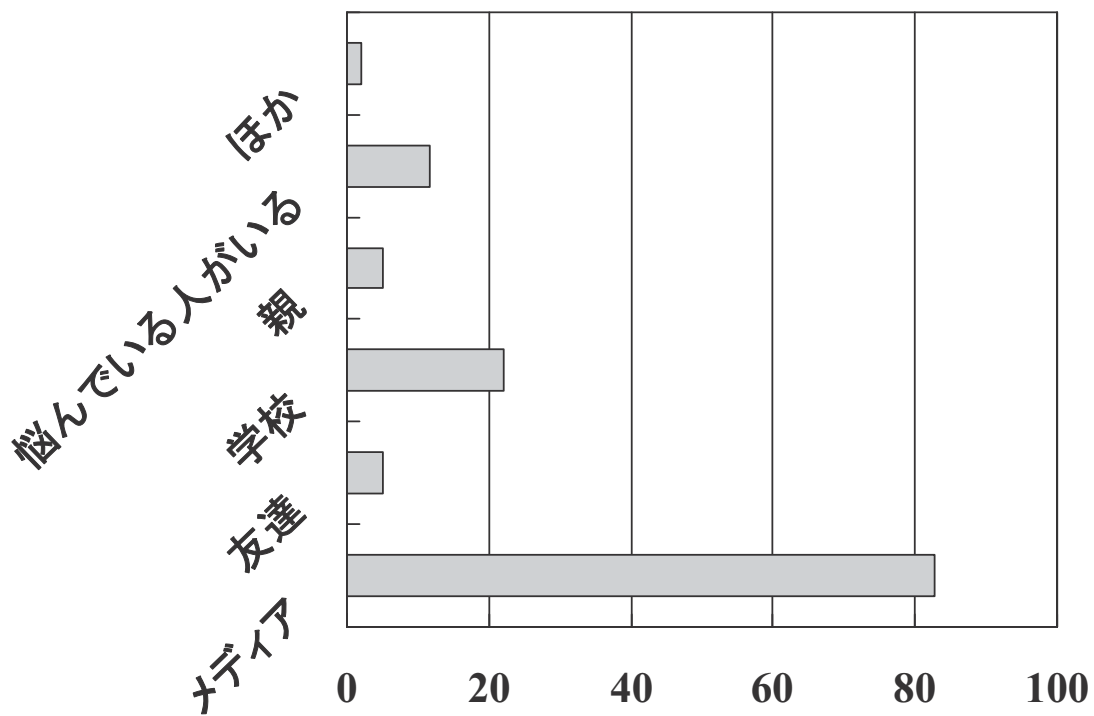


図8 不妊症についてどこで知りましたか。(複数)

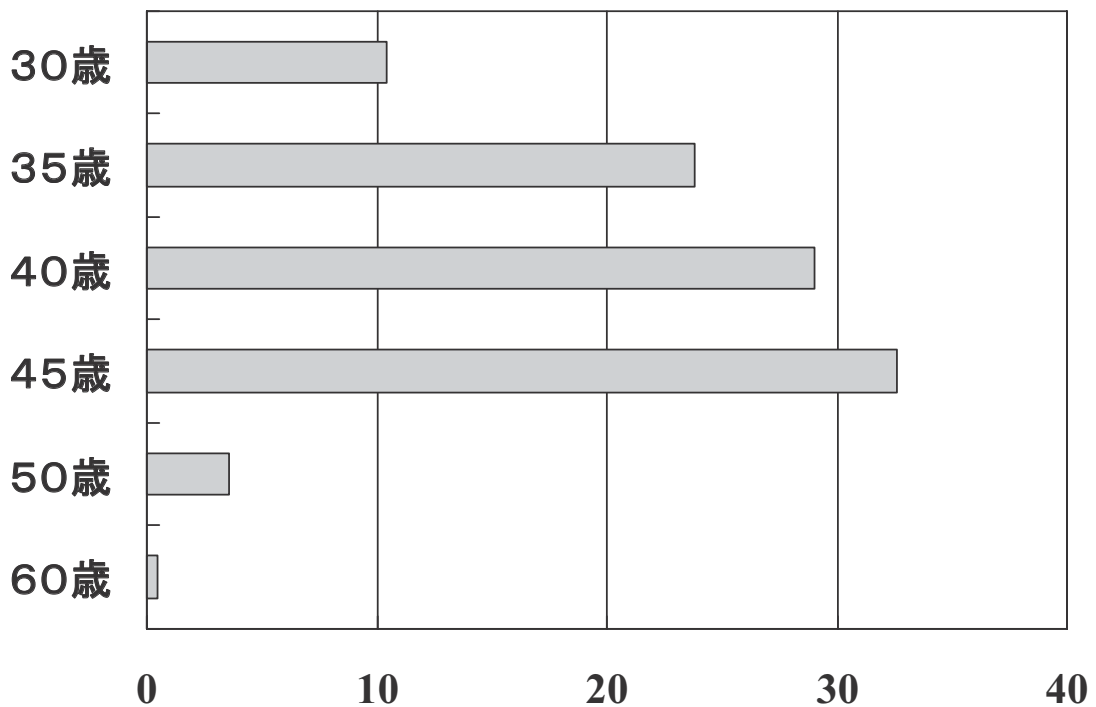


図9 あなた自身はいくつまで自然に妊娠できると思いますか。